

# 議会改革検討会議 協議事項

令和7.11.26 (水)  
午後1時30分  
於：第1委員会室

## 1 市議会の新たな取組について

### (1) 特別委員会の設置について

## 天竜区内 5 地区への報告における会議録抜粋 - 新たな取り組みに対する発言 -

地区	住民側	議会側
天竜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>移住を考えている人たちにとっても、ネガティブな情報の一方でそれをカバーするようなプラスな情報があれば、前向きに考えていただけると思うので、この点について考慮していただきたい</u>と思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>どの議員も、天竜区が宝の山であると考えていることは間違いない。しかし、そのポテンシャルを生かせてないのが浜松市の現状であると思う。どのようにすれば天竜区を良くできるのかを考えいかなければいけない</u>ということを、<u>議員それぞれが今思っているので、その実現のためにまず特別委員会を設置し、皆さんと協議させていただき、皆さんの方声を教えてもらう仕組みを作っていく。</u></li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後何かいろいろ対策を打つという面でも元々ポジティブではないイメージがもたれるという前提を理解した上でやっていただきたい。天竜区について、今後どのように考えていただけるかは大変気になるため、しっかりと取組んでいってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>我々議員だけで新たな取り組みを考えても絵に描いた餅になるため、まずは特別委員会を設置して、住民の皆様ともやりとりをし、どうすれば声が届きやすくなるのか</u>ということを考えていきたいと思う。ぜひ皆さんにも協力をしていただき、どうしたら市民の声が届きやすくなるのか、<u>仕組み作りを一緒に考えていただきたい</u>と思っている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ もし<u>議員定数を削減するのであれば、市議会議員 1 人分の予算を毎年配分するとか、研究会や自治会との連携を制度化</u>これを条例化するとか、<u>そういう仕組みを議会の新たな取り組みにおいて検討してほしい</u>。議員定数を減らすだけではなく、繋げる改革、繋ぐ改革をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別委員会設置による新たな仕組み作りについて、<u>天竜区の議員定数が仮に 3 名から 2 名になったときの 1 名分だけではなく、プラス 2 名とか 3 名分の議員の役割をしていくことがその仕組み作りで可能にならないか</u>ということを、ぜひ前向きに考えていきたいと考えている。<u>そのため市民の皆様から様々なアイディアをいただきたい</u>。例えば、<u>天竜区役所に議員の控え室を作ることも一つのアイディアだ</u>と思うが、<u>そんなアイディアを皆さんに自由な発想で出していただき、実現できる方法を求めていきたい</u>と思っている。<u>ユニークなアイディアを出しながら、笑いながら語り合いながら新しい仕組み作りをしたい</u>と思っている。</li> </ul>
佐久間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議員の数が少なくなると住民との間に距離ができる、声が届かなくなるのではないかということを懸念している。<u>天竜区に寄り添うための仕組みづくりを調査・研究していく</u>ということなので、その取組に期待したい。</li> <li>・ 現役世代が都市部に流れ、高齢化が進んでいる。<u>高齢者は投票所に行くのもままならない</u>状況にある。そうした実情も理解していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>天竜区に寄り添う取組については、議会内でも議論していくが、地域の皆様とともに上上げていきたい</u>と考えている。天竜区の議員定数の増減に関わらず行うことなので、協力をお願いしたい。</li> <li>・ <u>不安をどのように解消するかが今後の取組の肝である</u>。行政では区の再編によって副市長を配置したりコミュニティ担当を増員したりした。<u>今後議会としてどのように天竜区の皆さんの方声を吸い上げていくか</u>ということを考えていくことになる。行政と議会にはそれぞれ役割があり、行政を監視することも議会の大切な役割である。<u>皆さんから寄せられた声をどのように行政に届け、市政に反映していくか</u>を考えていくことになるので、</li> </ul>

天竜区内5地区への報告における会議録抜粋 - 新たな取り組みに対する発言 -

地区	住民側	議会側
	<ul style="list-style-type: none"> <li>冒頭のあいさつで、<u>ここへ来るまでの道中に感じたことや会議の中で出された意見を市政に反映してほしい</u>ということを言ったが、そのことを改めてお願いするとともに、<u>新たな取組に期待したい</u>。</li> </ul>	<p><u>協力をお願いしたい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><u>若年層へのアプローチなど、地域に住んでいる方からの生の声を聞きながら仕組みづくりを行うことが重要になる</u>ので、あらゆる場面を通じて意見を出していただきたい。</li> <li>今後特別委員会が設置された際には、<u>地元の選出議員に限らず、よい人間関係をつくっていく</u>ことが大切である。議員を身近に感じていただきたい。</li> </ul>
水窪	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考資料に記載されている<u>市議会の新たな取組について</u>、天竜区の住民の意見や課題を議会が吸い上げて、それを市政に反映できるようなシステムや制度を具体的に示すということだが、具体的に<u>どのような会議体で、どのように実施していくのか</u>。</li> <li><u>新たな取組</u>ということが、<u>水窪地区</u>であれば<u>国有林の荒廃の状況等、現地へ赴いて実際の現場を見てもらう</u>ことが必要である。また、全国的な課題として鳥獣被害がある。他市では市から自治会連合会に自由に使えるお金が配分されてくる。そうすれば柔軟な対応が可能であり、<u>そのような実効性のある取組につながることを期待したい</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>議員定数を削減するのであれば、そのような仕組みをつくる必要があるとの報告書が調査会から出されたものであり、<u>今後特別委員会を設置し、1年かけて皆さん</u>の意見を聞きながら新たな仕組みをつくりあげていく。</li> <li>議会は行政の取組が正しいのかといったことを監視する役割がある。議会としての<u>新たな取組</u>の中で皆さんから意見を聞くことで、行政の取組が正しいのかといったことの判断材料になると考えており、委員会として設置してはどうかということである。</li> <li>天竜区選出の議員は常に天竜区内を回って活動しているが、1年に一度訪れる程度といった議員も多い。<u>人と人とのつながりを持つためには頻繁に往来したり連絡を取り合ったりする</u>必要があると思っている。現地視察の実施などについても、<u>皆さんと議論する中でどのような方法が最適なのか模索していきたい</u>。結果的に<u>天竜区内の5地区</u>でそれぞれの方法論があつてもよいのではないかと思う。</li> <li><u>議員定数を減らすに当たっての代替策を議論</u>している。中山間地域に関する特別委員会を設置している山口県など、<u>他都市の状況なども勉強する</u>中で、今後のことではあるが、<u>新たな仕組みづくり</u>を検討していきたい。地域に住んでいる方の肌感覚に勝るものはないと考えており、<u>天竜区選出の議員を中心</u>に据えながらも、市議会議員として<u>他区選出議員</u>であつてもともに考えていきたい。例えば水窪地区で特別委員会を開催したり、移動委員会として様々な場所で開催し、市民の方が傍</li> </ul>

天竜区内5地区への報告における会議録抜粋 - 新たな取り組みに対する発言 -

地区	住民側	議会側
	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口をいかに減らさないかという不可能に近い課題がある。<u>現役世代の人口流出を避けるため、雇用を生むような施策をお願いしたい。</u></li> </ul>	<p>聴しやすくするようにしたりするなど、議会と皆さんの距離を縮めていくことが大切であると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別委員会を設置した際に、<u>地域の方とざくばらんなことが言えるようになればよいアイディアが出てくる</u>と思っている。そういうことを考えていくのが特別委員会の意義だと考えている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>議員定数が減ると住民の声が届きにくくなるのではないかということを地域は懸念している。災害によって、東栄町から引佐町を経由して市街地へ出るという状態が長期間続いたことがあったが、そのような実情が分かりづらくなるのではないか。</li> <li><u>人口減少が進む中、次世代の担い手をどのように育てていくかが課題である。意見や要望を伝えることは大事だが、その要望が通ることが大事であり、要望の中身も相応のものでなければならぬ。</u> そういった意味では地域に住む人間も賢くならなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天竜区の議員定数3人を維持したとしても、天竜区に寄り添う新たな仕組みが必要だと考えている。議会のみで考えると実効性がないものになってしまう可能性があるため、皆さんとともに考えていきたい。</li> <li> <ul style="list-style-type: none"> <li><u>次世代をどう育てるかは共通の課題である。その地域の魅力をどのように発信し、どのようにすれば若い世代が地域に定着するのか、行政・議会・住民が一体となって取り組んでいくことが大切である。</u></li> <li><u>次世代の担い手をどのように育てていくかといった未来志向の御意見もいただいた。今後水窪地区をさらに盛り上げていくためにどうすればよいのか、一緒に考えていきたい。</u></li> </ul> </li> </ul>
春野	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕組みという話があった。<u>現在、市議会で上がっている具体的な仕組みとは何か。</u> また、市では天竜区に手厚くということで、中山間地域振興計画と特命の副市長の配置、中山間地域振興課の設置がある。様々な仕組みについて考えると、<u>議会で委員会など組織化してほしい。</u> 中山間地域振興計画の進捗状況の報告や、<u>市に対して議会から提案</u>などが出てくるようになるのではないか。中山間地域の問題は天竜区だけの問題ではない。引佐北部も中山間地域である。中山間地域の空気、水、森林などの果たす役割、影響は浜松市全域に及ぶ。<u>浜松市全体として中山間地域を考えてほしい。自治会と議員が委員会に入り議論をしていくような場をつくれば、安心できる要素になる。仕組みづくりとして提案したい。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域、特に天竜区が浜松市全域に影響を及ぼすと考える。浜松の南ではあまりその意識がないのが問題点。<u>天竜は宝の山だ</u>という思いはあるが、<u>こうしたポテンシャルを議会も行政も生かしきれていない</u>のが問題点。どうしたらという解決案がなかなか生まれないのが現状。<u>そこを皆さんとともに話し合いながら解決し、今回の新しい仕組みをつくり上げられたら</u>と考えている。</li> <li>委員会という話も一つの案であるのは間違いないが、まだ我々から具体的な案を出せないのは、我々が作ったものでは机上の空論になりかねない恐れがある。<u>住民とともに話し合いながら新しい仕組みづくりをして、地域の情報を我々が知る、生かす仕組みづくりを考えていきたい。</u> 今回、我々もこの特別委員会をまず設置して、新たな仕組みづくりをしたいことを理解してほしい。これだけで解決するとは思えないが、少しでも前に進めたらと思い、提案している。</li> <li><u>天竜区だけの問題ではなく、森の涵養などの力は浜松市にとって非常に大きい。</u> <u>この資源をどう生かすか、我々として生かすにはどのようなことをやったらしいか</u>を考えていくことが非常に大</li> </ul>

天竜区内5地区への報告における会議録抜粋 - 新たな取り組みに対する発言 -

地区	住民側	議会側
	<ul style="list-style-type: none"><li>合併20年、3区制になって1年が経った。<u>天竜区には様々な資源があると、これは20年前から言っていた。</u>ただ、実際のところどのような取組をしたのか。そして、今20年になってやっと初めて天竜区の皆さんとの話を聞きますと。20年の間どうしていたのか。<u>これからやることには大変期待があるが、今まで天竜区に対してどのようなことを考えてきたのか。</u>そして反省も含めて、これから新しい取組をしようとしているのか。皆の本心はそこにあるのではないか。<u>今までの天竜区に対する議会としての取組、考え方を教えてほしい。</u></li></ul>	<p>事。当然、浜松市も中山間地域振興計画をつくっているので、いかに進捗管理しながら実現を図っていくかが非常に重要。<u>市全体、議会全体として、この地域をどのようにこれから運営していく、皆様の声を聞きながらそれを反映していくか</u>が非常に重要な部分と思う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>中山間地域の問題は市全体の問題という話があった。我々も始めは中山間地域特別委員会という方向性もあったが、まずは<u>天竜区</u>と地域を限定して、それがうまくできれば、ほかにどんどん広げていく形のものを作りたいと思っている。まず、この最も浜松市で面積が大きい天竜区を地域住民と語ることが一番大切と思っている。今後そうした形で、特別委員会で仕組みをつくっていきたい。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>先ほど、削減関係なく取組をすると言っていたことは大変ありがたいが、もう一度天竜区の現状を見ていただきたい。区役所、支所、行けばよいが、免許を持っていない人も増えている。当然バスも走っていない。そうしたところから、<u>中山間地域にはまず何が一番大事かを、ぜひその目で見て、そして一緒になって、新しい中山間地をつくりていただきたく。</u>そうした視点でこの取組をやっていただきたい。この取組の意義も、それにより初めて前を向けるのではないか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li><u>天竜区を見据えたとき、この広い面積を3人でカバーするのはやはり非常に難しい。</u>天竜区の議員3名は日々様々な場所へ足を運び、広い天竜区をどうするかと考えていることが改めて感じ取れた。やはり<u>議員それぞれが市議会議員として天竜区を見直さないといけないと話し合う中で、特別委員会の設置など様々な意見が出てきた。</u>その中で、<u>新しい仕組みづくりをすることが議会改革検討会議でまとまったと理解してほしい。</u></li><li><u>今回の特別委員会では実際に生活される方の肌感覚を我々もしっかりと持てるような取組を入れていきたい</u>というのがアイディアとしてある。ぜひ一緒によいものをつくり上げていきたい。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li><u>ざっくばらんに言える体制をどうしたら作れるのかを重要視したい。</u>我々議員だけで考えても、ざっくばらんにならない。地域住民から、<u>こうしたらざっくばらんに話ができるという声</u>、ちょっと聞いてくれというような話ができる体制づくりが夢。その<u>仕組みづくりを住民と話をして、1年間かけて仕組みづくりを作っていく</u>。計画などを特別委員会で議論することも必要であるし、地域に入って皆さんと話すことも必要。それが次回選挙で勝ち残った議員一人一人の役割。皆が天竜区へ来て、天竜区の議員と話をする、天竜区の議員は住民と話をするというような<u>仕組みづくり</u>ができたら、浜松市議会はよい議会になるのではないか。これが私の今の夢であり、この仕組みづくりを話している原点である。その仕組みづくりを皆さんと話をして進めさせていただきたい</li></ul>

天竜区内5地区への報告における会議録抜粋 - 新たな取り組みに対する発言 -

地区	住民側	議会側
龍山	<ul style="list-style-type: none"> <li>議員が少なくなっていくということは、<u>広い面積の地域の声が取り上げられることが段々となくなっていくのではないか。何とかその辺はカバーできないか。</u></li> <li>確認だが、<u>合併前は議員が216人いたということでおいか。</u></li> </ul>	<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><u>広い面積で声が取り上げられないのではないかという懸念に対しては、今回、特別委員会を設置し、新たな仕組みづくりを通じて皆様の声を聞く方法を検討していく。我々だけで机上の議論をするのではなく、1年かけて特別委員会が皆様と対話しながら、適切な仕組みづくりを進めていきたいと考えている。個人的な見解ではあるが、5地区全てが同じ仕組みである必要はないと考えている。各地区の特性に応じたやり方があつてもよいのではないか。このような点も皆様と協議しながら、議会としてどのような仕組みづくりができるかを検討していきたい。</u></li> <li><u>各地区に議員がすぐそばにいたという状況であった。そのため、議員に声を届けるという場は非常に多かったと思われる。合併して議員に対する声が届きにくくなったという意見を我々も多く聞いている。その届きにくくなった部分を解消したいというのが、今回の新たな取組の目的である。天竜区の議員は、この広い地域を3人で担当しており、様々な活動をしていただいていることに頭が下がる思いである。それを議会全体でカバーできないかというのが今回の考え方の一つである。ぜひ理解していただきたい。この新たな取組を作る上では、皆様のお考えや声を聞きたいので、その際には御協力をお願いしたい。</u></li> <li><u>我々も一生懸命考えて、提案をするようにする。ただし、我々だけで進めると、机上の議論だけになる可能性もあるので、ぜひ相互でアイディアを出し合いながら、良い仕組み作りを構築し、令和9年4月から稼働させたい。</u></li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>議会として新たな取組を、住民の意見を参考にしながら進めていくことを強調したい。単なる形式的なものではなく、意味があり有効な取組が生まれるよう、議会の皆様には自ら住民の意見を積極的に求めていただきたい。さらに、これからの中時代にふさわしい提案を行い、この地域が活力ある良い地区になるよう尽力していただきたい。そのような委員会になることを要望する。</u></li> <li><u>新たな取組には財政出動も絡む可能性がある。行財政改革という名のもとに、それができないというようなことでは不安が募るため、そこは配慮をお願いしたい。</u></li> <li><u>議会に対する窓口が減ることになるため、議員以外の窓口を作っていただきたい。議会に直結しないかもしれないが、段階を経て上がっていけるような場所を作っていただきたい。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>新しい仕組み作りは、議員にうまくつながるかということが重要である。地区として議員につながる仕組み作りをどうするか考える必要がある。市議会議員は市全体を見なければならぬが、関係性ができれば電話一本で対応できるようにな</u></li> </ul>

天竜区内5地区への報告における会議録抜粋 - 新たな取り組みに対する発言 -

地区	住民側	議会側
	<ul style="list-style-type: none"><li>合併した際にぶどうの房という形で来たものが、区制になってから、どちらかというと平等になってしまった。さらに、行革のもとで様々なことが削減され、それが衰退を招いた最大の要因となっている。そのような中で、今回また同じように議員定数の問題で削減というようなことになると、ここに住んでいる皆さんは、天竜区が見捨てられるのではないかという不安がますます大きくなると思われる。我々はここで住んで生活していくなければならないので、このような思いも生まれている。これを実行することで、(合併が)無駄になったような気持ちにならないようなことを、ぜひ大前提に考えていただきたい。</li></ul>	<p>る。<u>人と人との関係を構築しながら、窓口となる関係性ができた人を作る仕組みができればよいと考える。</u>ただし、これは個人的な発想であるため、<u>皆さんと話し合いながら仕組み作りを進めていく。</u><u>行政が議員の秘書役のような形で各地に人を配置し、住民とやりとりをするという考え方もあったが、行政としては難しいという話もあつた。</u>そのため、<u>それに代わるものができるいか検討する。</u></p> <p>・<u>皆さんが不安に思っていることを一つでも解決できるような仕組み作りを考えていきたい</u>と思っている。先ほどから言っているように、その仕組み作りの際のご協力をお願いしたい。必ずとは言い切れないが、ぜひ役立つような仕組み作りを実現したいと思うので、よろしくお願ひしたい。行政も担当副市長を設置したり様々な取組を始めている。<u>我々議員は行政とは違う立場で、天竜区のポテンシャルをどう生かせるか</u>ということを、議会として取り組んでいきたいと考えている。もし違う方向性だと思われたら、ご指摘いただければ、議会として頑張っていく所存である。</p>

発言の主なポイント

[住民側]

- ❖ 議員定数が削減された時、住民の声が届きにくくなることへの懸念
- ❖ 新たな取り組みに対する期待
- ❖ 新たな取り組みに対する提案
- ❖ 天竜区が抱える問題は、市全体の問題であることへの理解
- ❖ 現地に赴き、現場を見ることへの訴え
- ❖ 新たな取り組みの実効性に対する願い

[議会側]

- ❖ 新たな取り組みは、広大な天竜区の課題を議会全体でカバーするためのもの。
- ❖ 新たな取り組みは、地域の声が届きにくくなったことを解消するためのもの。
- ❖ 新たな仕組みづくりは、議員だけで考えるのではなく、住民と対話しながら進める。
- ❖ 新たな仕組みづくりは、各地区の特性に応じて検討を進める。

会派名

## 特別委員会設置に向けた検討事項について

## 1 検討項目及び内容

項目	会派案	11/4 議会改革検討会議で整理した内容
(1) 設置理由	<input type="checkbox"/> 右記とおり <input type="checkbox"/> 右記以外 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市議会全体で天竜区の課題に向き合う意識が必要とされている。</li> </ul>
(2) 設置目的	<input type="checkbox"/> 右記とおり <input type="checkbox"/> 右記以外 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広大な面積を抱え、過疎化が急速に進む天竜区を対象に、議会として地域の課題や住民の声が届きやすくなる仕組みを考え、また、実践することで地域を支える力になる。</li> </ul>
(3) 名称	<input type="checkbox"/> 右記とおり <input type="checkbox"/> 右記以外 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天竜区特別委員会</li> </ul>
(4) 設置期間	—	令和8年1月1日から令和9年3月31日までの間
(5) 委員定数	① 定数 <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> ② 構成 <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> ③ 正副委員長の選出方法 <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 11/26 議会改革検討会議で協議予定 </div>
(6) 付議事項	<input type="checkbox"/> 右記とおり <input type="checkbox"/> 右記以外 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天竜区の実態に対応した議会の取り組みに関する事項</li> <li>天竜区民と議会をつなぐ仕組みに関する事項</li> </ul>

※検討する項目は、赤字太枠部分が該当

【提出期限】 11月20日（木） 17時

## 特別委員会設置に向けた検討事項について（会派回答まとめ）

検討内容	検討結果					
	自由民主党浜松	市民クラブ	公明党	創造浜松・ 国民民主党浜松	日本共産党 浜松市議団	浜松市政向上委員会 市民サポート浜松
修正あり	修正なし	修正なし	修正なし	修正なし	修正なし	修正なし
(1) 設置理由	市議会全体で天竜区の課題に向き合う <u>こと</u> が必要とされている。					
修正あり	修正なし	修正なし	修正なし	修正なし	修正なし	修正なし
(2) 設置目的	広大な面積を抱え、過疎化が急速に進む天竜区を対象に、議会として地域の課題や住民の声が届きやすくなる <u>新たな仕組みを考えることを目的とする。</u>					
修正なし	修正なし	修正なし	修正あり	修正あり	修正なし	
(3) 名称				天竜区共創特別委員会	天竜区対策特別委員会	
(4) 設置期間	令和8年1月1日から令和9年3月31日までの間					
(5) 委員定数						
①定数	—					
②構成	—					
③正副委員長の選出方法	—					
修正なし	修正なし	修正なし	修正なし	修正なし	修正なし	修正なし
(6) 付議事項						